子どもたちに防災教育重要

ジュニア検定の事務局長講演会

地域活動サポートセンター柏崎（石坂泰男理事長）は20日、防災検定協会の浜口和久事務局長による講演会「防災寺子屋　こどもと一緒に考える防災～ジュニア防災検定を通して」を文化会館アルフォーレ大会議室で開いた。コミセンや教育関係者、一般市民ら約50人が参加し、最新の取り組みなどを聴いた。

講演は、教育現場や地域コミュニティで「防災教育」の重要性が高まっていることから、全国の最新の実践例を知ることで、学校や地域の防災力向上につなげてもらうことが狙い。

浜口事務局長はジュニア検定について「東日本大震災では、普段の防災教育の差で子どもの命の明暗が分かれた。子どもたちの一人ひとりが防災力を身につける必要がある」と説明。同検定の特徴として、筆記試験の前後に家族や友だちとの話し合いをまとめたレポート、自宅周辺の防災マップなどの課題提出を求めている点を挙げ、「何が必要か自分で考える力をつけるには、知識の正否で点数を付ける試験では不十分」と語った。

子どもが提出したレポートを紹介しながら、防災意識の定着の重要性を訴え、「しっかり防災教育を受けた中高生は、地域の『防災力』の担い手となる」とまとめた。講演を聴いた市内の女性(45)は「こうした検定があるとは知らなかった。柏崎でも広く普及してくれると、親として安心できる」と話した。

防災検定協会の浜口和久事務局長による防災教育講演会＝20日、アルフォーレ・大会議室

漆器の作品手に取り鑑賞

ギャラリー・タンネ　25日まで

市内谷根のギャラリー「tanne（タンネ）」（アラキフミコ店主）で石川県輪島市在住の赤木明登さんの漆展が開かれ、訪れた人が作品を手にとって鑑賞したり、喫茶コーナーでゆっくりとくつろいだりしている。会期は25日まで。

赤木さんは1962年、岡山県生まれ。世界文化社家庭画報編集部を経て、輪島塗下地職人に弟子入りし、94年に独立。国内外で個展を開いており、著書に「美しいもの」「美しいこと」「名前のない道」（い

大学の家族連れらでにぎわった科学の祭典＝21日、新潟工科大

催しは、科学技術の観